

鴨川と市民生活の中で…

NPO 法人環境カウンセラーズ京都等
理事長 金田 由紀夫

【プロローグ】

四条大橋の「南座」のほぼ近く（京都市左京区東山区祇園地区）に居を構えて41年、町内会に顔出しても“まだ浅おすな”と言われる。

京の伝統・風土、文化・習慣や心遣いが、十分に解っていないとのことだ。何が解っていないのか自問自答する中で、歳月というものに香りと音色があるとすれば、鴨川沿い満開の桜の微かな匂いと水面に生きる野鳥・川魚、そして、納涼床での食事や散策を楽しむ人々の風情であろうかと感じている。

歴史と京文化を育み憩いの場所として、市民にも京都を訪れる方々にも永く親しまれている鴨川。この鴨川と一体になって、これからも我々は共生していけるか…今回考えてみたい。

※鴨川（写真1）：一級河川淀川水系、延長31km、流域面積210km²、水源－嵯峨ヶ岳、水源標高896m、河口・合流口－桂川



写真1 今出川大橋より北を望む（出町柳の三角地帯）高野川（右側）と賀茂川（左側）が合流して鴨川になる。奥に緑の森で有名な下賀茂神社がある

（1）京都府鴨川条例 2007.7.10 交付（一級河川淀川水系鴨川）

- ①糞尿はしない、捨てない
- ②ゴミや不要物を廃棄しない
- ③焚火はしない、火の気は使わない
- ④自動車乗入れと自転車放置はしない
- ⑤落書きはしない

これらの“しない”は、この京都府鴨川条例の規制事項として府民市民にしっかり守られている。

規制場所は、「鴨川等」であり鴨川と高野川が対象であるが、通例として表記されている賀茂川・加茂川を含む。河川保全をテーマに鴨川府民会議が年4回ほど開催される。府市民と事業者の協働で、安全・安心で快適な環境づくりを図っている。鴨川の魅力・抽出にも意欲的だ。HP「鴨川四季の日」で取り組み内容に触れられる。

私自身、二日にあかず、歩くなり自転車なりで上に下に河川敷の遊歩道を利用しているが、穏やかでいい雰囲気である。ベンチ、フラットな木の栈敷もあり、芝生で寝そべることもできる。清掃も行き届いており、ゴミが散らばっていることを見たことがない。

四季の草花・樹木の移ろいと水鳥たちが生きる様も楽しめる。災害には、いかにも強い川のように見えるが、暴れ川の名をほしいままにした歴史も歩んでの、今の鴨川があるのです。

なお、平家物語でも白河法皇でさえも「賀茂川（鴨川）の氾濫、双六のサイコロの目、比叡山延暦寺の僧兵の3つはどうすることもできなかった」と嘆いたことから、「思うようにならないこと」の例えとして使われる。



写真2 丸太町橋から出町柳方面



写真3 鴨川東岸で涼む



写真4 亀石を渡って遊ぶスポット



写真5 マガモ夫婦、カワウやサギもみられる

2. 鴨川景観／文化と被災の恐れ

大災害多発の平成。今般、鞍馬・雲ヶ畑の山林里山も多く被災した。94年前の1935年（昭和10年）の鴨川水害では、82名の死傷者と482戸の家屋全半壊、26橋の殆どが流出・倒壊した（北大路・加茂・七条橋のみ被害なし）。京阪本線の路盤・駅舎流出もあり。

その後の鴨川改修工事で河川文化にメリットを生み出したことが、幾つか次に挙げられる。

①鴨川景観の変化…川幅拡張と落差を付けた堰

を多くつけた流水の抑制で、水音に高揚感。

②交通渋滞緩和策…京阪線と琵琶湖疎水の地下

化、川端通の開通で新規の自動車大動脈。

③防災対応…御池通～五条通間の堤防を火災発

生時の消防車侵入ルートとして整備。

（^{ほん}と先斗町東側の河川敷は、カップルに愛される場所でもある；写真3）

これで心配事が消えたわけではない。一番の気がかり事は、毎年のように、言われる京の都心を流れる河川の地下山脈の岩盤が動くのか、その時に備えた耐震補強や対策が取れるのかであろう。平和の願いが込められた令和元年を迎え、安全祈願をしたい気持ちでいっぱいである。



写真6 三条大橋の決壊（1935年）

3. 鴨川の恵みって何だろう

川・水辺がある。それを耳にただけでも、人は安堵感を覚える！ 非日常感と自然との接点に価値がある。

鴨川で命をつなぐ動植物はたくさんいる。そこで自然とのふれあいがあると我々は自覚する。ネット社会では、この接点が薄れているが、晴れた祝祭日には、泳ぐ、魚を捕ったり散策・ジョッキング、花見や観察会があり、交友の場にもなっている。晴れ舞台～鴨川の表情である。

では、裏舞台は、どうであろうか。

環境保全の大きな課題は、鴨川上流の森林荒廃（管理放置とナラ枯れが主因）とシカの食害にあり、絶滅希少種の生態系被害も膨らむ中で、どう対応策と保全実践を図っていくかが重要となっている。どれも人間活動に起因する原因ばかりで、次の様に余りにも多岐にわたっている。



写真7 鴨川の納涼川床（かわゆか）



写真8 乱舞する都鳥（ユリカモメ）

開発	生息生育地の改変・消失
森林伐採	人工林化、草地刈り取り
乱獲	密漁、盗掘などの捕獲・採集
里山放置	新炭林減少、湿地の乾燥化
水質汚染	水質悪化、生活排水の流入
農薬汚染	農薬、除草剤の使用
外来種	外来種競合、補食、遺伝子汚染
その他	大気汚染、空中湿度の低下など

行政、事業者と研究者が改善対応の知恵を年中、絞っている最中である。私も市民の一人として行動を起こしていきたい。勿論、未来を育む次世代を巻き込んでおき息切れしないことが、肝要である。そして、末尾に令和に実現することの夢舞台を描いて、筆を置きたい。

4. 鴨川に昔の姿を再現！

次ページの絵（写真10・11）にご興味を覚える方もいらっしゃるのでは…四条河原の夕涼み…。

河原の中洲と栈敷での食事や茶席が無数にあり、水の中添えとして盛んな商いがあった様子が偲ばれる。

この絵面は、安永9年（1780年）執筆の挿絵であり、江戸中期の京都を知る上で貴重な文献史料として高く評価されていると聞く。江戸で出来たものが、現代の技術で叶わぬものはなかろう！との期待である。

意志あるところに、道ありと信じてみたい。ど



写真9 都会のど真ん中でアユ釣り



写真10 四条河原町の中州の賑い



写真11 鴨川の両岸の賑い

んなことが、可能か!! 列伝の頭の中である。

- 1 清流量を抑える景観を保つ段差も活用し、常設の栈敷…
- 2 岩盤層から汲み上げられた味深い京の井…
- 3 水草の流れに住み着く希少川魚の姿…
- 4 太陽光を活かした電源と照明…
- 5 子供たちも安全に遊び水を学べ、五感で感じる水広場…
- 6 小さな鴨川生き物勉強館と未来博物館…
- 7 鴨川水で醸造した銘酒と川魚料理でひと時を過ごせる伝統の味…

欲張ったらキリがないが、河川の価値を捉える中で、自称『おしゃれな未来～鴨川の世界』を目指す河川敷の再現!!を夢見る日々である。

読者の皆さんにとって、金閣寺、清水寺、伏見稲荷神社など有名な寺社仏閣も素晴らしいが、市民生活に密着した鴨川の自然や歴史に思いを寄せて散策を楽しんでいただきたい。今回は、鴨川の水について取り上げてみたい。

【著者紹介】

- おもな活動：①里山の整備と放置田の蘇生に長期に取り組む ②企業・事業者への山林・里山保全で社員環境教育の企画・運用に関わる ③鴨川源流・曇ヶ畑で河川整備と希少植物の保全管理にグループ参加
- 資格等：環境カウンセラー（市民部門）、林業士、自然観察指導員。
- 専門は中小企業論

〈参考文献〉

- 1)「都名所図会」竹村俊則校注、角川書店
- 2)「水が語る京の暮らし」鈴木康久、白川書院
- 3)「鴨川いきものの紹介」2010-2019、水環境研究所
- 4)「京都府自然環境保全課」こんなことをやっています、京都府HPより
- 5)「京都府鴨川条例」京都府HPより
- 6)「鴨川は何故きれいにならないか」勝矢淳雄、日本下水文化研究会